小林市子議員

都市公園に関する条例が、住民の利活用に活かされているか

町民の利活用に前向きに取り組む

質問・・・富士見町で制定している都市公園についての条例は、住民のために活かされた設置基準・目的に沿って整備・管理されているか。

町長・・・基本的には目的に合致していると思うが、今までの状況では、多くの人が利用しているとは思えない。「ふじみ分水の森」公園には、今年芝生を植えたが、子どもたちやお母さんがくつろげる場所になるのか、様子を見ていきたい。さらに多くの町民に利用されるよう整備していく。

質問・・・市街地の中心部にある公園「ふじみ分水の森」は、町が多額の税金を使って購入した街区内の一等地。自然に親しむ公園というコンセプトで整備されたということで、トイレや駐車場が整備され、遊歩道にチップを敷いてはあるが、犬の散歩に利用している人くらいで、子どもを連れて利用している姿は見受けられない。防犯や安全性、環境面からも危険要素がかなりある。

　高さのある樹木は、今後の気象状況によって倒木や枝の落下なども想定される。条例は、住民のために活かされてこそあるものだと思うが、今後の方針は。

町長・・・新しい提案として受け止める。町の都市公園の管理や利活用等を含め、町の有識者、また全体の中から、メンバーを選んで検討していく。

建設課長・・・公園は避難場所としての指定もあり、その分野での利用も考えている。

　「ふじみ分水の森」の笹原に芝を植えたばかりだが、芝生広場として今後の利活用を促していく。また高木については、危険性を考慮し伐採しているが、専門家のアドバイスもあり、徐々に整備していく。

質問・・・6月の議会で、公園の設置についての条例改正があり、国は、高齢者や障がいを持った人たちにも親しみやすい環境の施設整備・管理の実現を義務付けている。

　住民にとって条例が活かされる内容にしていく考えは。

町長・・・前向きに取り組んでいく。

三井新成議員

人口の維持・増加対策をどう考えているか

町の財政基盤を固めたうえで方策を考えていく

質問・・・人口の増加対策に企業誘致、新規就農者の育成は、どの程度の効果が出ているか。

町長・・・この2年間で町内に新しく製造業で3企業が誘致され、町内から6人が雇用されている。新規就農者では、個人が27件、法人が4件で、40人の増加がある。

質問・・・5年10年先の人口の推移をどう予測し、どのような方策を考えているか。

町長・・・町内での年間死亡者数は約200人、出生者数は100人、町外へ転出者が150人、転入者が50人と概ね200人前後が減少している。人口統計予測として、2020年には14560人、2025年には13988人、2030年には13439人と予測される。

　人口増加対策としては、出生数を増やすことが大事であり、若者が町内に定着してくれる町づくりが必要。行政には質の高いサービスが求められる。若者を取り巻く現状は、雇用も安定せず、子育てのための十分な収入がない。しかしながら、若者に生活費や住宅費の補助、結婚祝い金、出産祝い金等を出す補助施策は、町の財政基盤が安定していない現状では無理と考える。

質問・・・町内企業に勤務している若者たちのために、定住促進住宅を建てる考えは。

町長・・・定住促進住宅の整備には多額のお金もかかり、また他の施策に一時的に予算投入しても、財政的に見れば恒久的施策にはならない。

質問・・・高齢者向けの農園付き住宅、介護施設付き高齢者タウンをつくる考えは。

町長・・・原村で先行して行っているが、現状は大変厳しい状況にあり、今は考えていない。

質問・・・結婚相談所で行う婚活パーティーを1泊2日に拡大して成立カップルを増やす考えは。

町長・・・婚活パーティーでのカップル誕生は多いが、成婚率が極めて低い。決定打はないが、どうにかゴールしてもらう努力をしていく。

□その他の質問

＊運転免許取得補助について

＊上水道の使用量拡大について